NPO地球の緑を守る会/〒121-0072 足立区保塚町1-6 /Tel:03-6783-4707 Fax:03-6783-5595/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
令和3年(2021)9月10日
No.165
発行 高津啓洋

ニームの花が咲き始めました

国連でも有用な木として認められるニームの木にかわいらしい花が咲き始めました。

ニームの花が一斉に咲き始めました

レダでは、また最も栄養のバランスの良い木として、国連でも推奨しているモリンガの木がたくさん花を咲かせています。

また、12月に美味しい実を実らせるマンゴーも一斉に花が咲き、小さな実を実らせています。ただレダは、鳥害が酷く、下の写真のようにペットボトルをかけないと、人が収穫する前に、鳥の餌食となってしまいます。

マンゴーの小さな実です

予想を超えた温暖化問題

地球温暖化はどの程度加速しているのかが、研究者による最新の報告書が出されました。今後、温室効果ガスの排出量が減少したとしても、２０４０年までに世界の平均気温は１．５℃上昇する可能性が高いと予測しました。

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が9月9日に公表した地球温暖化に関する第6次報告書は、予想されたこととはいえショッキングな内容でした。産業革命前と比べた世界の気温上昇が「2021~40年」に1.5度に達すると予測しました。

前回2018年の報告書では「30~52年」に達すると見ていましたが、予測モデルを改良し、最近の山火事や豪雨、北極圏の氷河溶解などの変化を取り込んだ結果、**10年程早まった**として。温暖化防止のための国際条約、パリ協定では「50年炭素ゼロ」を目指して取り組んできましたが取組みの前倒しが改めて求められるだろうと報告されました。

IPCCの今回の報告書は冒頭で「人間の影響が大気、海洋、および陸域を温暖化させてきたのは疑う余地がない」と断定しています。

最近気になるキーワードとして**「カーボンバジェット」**が挙げられています。

「カーボンバジェット」（炭素予算）とは、人間活動を起源とする 気候変動 による地球の気温上昇を一定のレベルに抑える場合に想定される、 温室効果ガス の累積排出量（過去の排出量と将来の排出量の合計）の上限値をいいます。

言ってみれば、すでにコップにためられた水（過去の温室効果ガスの排出量）、そしてあとどれだけコップに水をためられるかの（残りの水の量：これから排出可能な量）で、上限値が出ます。これを超えるとコップの水は溢れてしまい、人をはじめ生物が棲める環境はなくなってしまいます。

結局、温室効果ガスをどこまで抑え込めるか、日本は2050年にゼロを目標にしています。しかし、他の国においては、先進国の今までの排出の責任を問い、発展途上国は温室効果ガスを出す権利を主張しています。

コロナパンデミック対策と同様、温暖化問題も深刻の度を増しているのです。

[お知らせ] 2021年セミナーは、11月20日（土）を予定しています。